

超小形端子台形信号変換器 **M5X・UNIT** シリーズ

取扱説明書	PC スペック形	形式
	ピークホルダ	M5XPHS

**ご使用いただく前に**

このたびは、エム・システム技研の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本器をご使用いただく前に、下記事項をご確認下さい。

■梱包内容を確認して下さい

- ・変換器 .....1 台

■形式を確認して下さい

お手元の製品がご注文された形式かどうか、スペック表示で形式と仕様を確認して下さい。

■取扱説明書の記載内容について

本取扱説明書は本器の取扱い方法、外部結線および簡単な保守方法について記載したものです。コンフィギュレーションは PC にて設定可能です。詳細は、コンフィギュレータソフトウェア（形式：M5CFG）の取扱説明書をご参照下さい。コンフィギュレータソフトウェアは、弊社のホームページ <https://www.m-system.co.jp> よりダウンロードが可能です。

**ご注意事項**

●EU 指令適合品としてご使用の場合

- ・本器は盤内蔵形として定義されるため、必ず制御盤内に設置して下さい。
- ・お客様の装置に実際に組込んだ際に、規格を満足させるために必要な対策は、ご使用になる制御盤の構成、接続される他の機器との関係、配線等により変化することがあります。従って、お客様にて装置全体で CE マーキングへの適合を確認していただく必要があります。

●供給電源

- ・許容電圧範囲、電源周波数、消費電力  
スペック表示で定格電圧をご確認下さい。  
定格電圧 24 V DC の場合 24 V DC ± 10 %、1 W 以下

●取扱いについて

- ・本体の取外または取付を行う場合は、危険防止のため必ず、電源および入力信号を遮断して下さい。

●設置について

- ・屋内でご使用下さい。
- ・塵埃、金属粉などの多いところでは、防塵設計のきょう体に収納し、放熱対策を施して下さい。
- ・振動、衝撃は故障の原因となることがあるため極力避けて下さい。
- ・周囲温度が -20 ~ +65℃ を超えるような場所、周囲湿度が 30 ~ 90 % RH を超えるような場所や結露するような場所でのご使用は、寿命・動作に影響しますので避けて下さい。

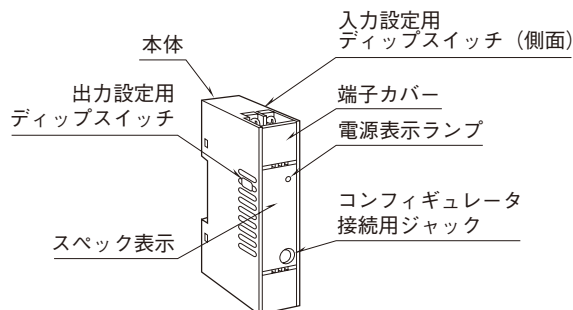
●配線について

- ・配線は、ノイズ発生源（リレー駆動線、高周波ラインなど）の近くに設置しないで下さい。
- ・ノイズが重畳している配線と共に結束したり、同一ダクト内に収納することは避けて下さい。
- ・遠方より引込む配線には、各種避雷器を設置して下さい。

●その他

- ・本器は電源投入と同時に動作しますが、すべての性能を満足するには 10 分の通電が必要です。

**各部の名称**

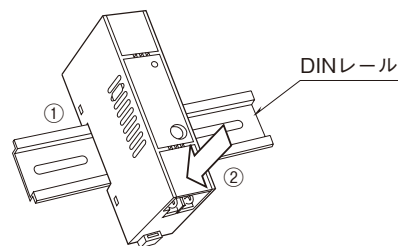


**取付方法**

本体はスライダのある方を下にして DIN レールに取付けて下さい。

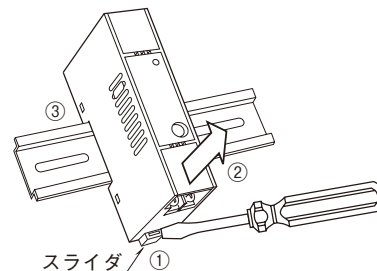
■取付ける場合

- ① 本体裏面上側のフックを DIN レールに掛けます。
- ② 本体下側を押込みます。



■取外す場合

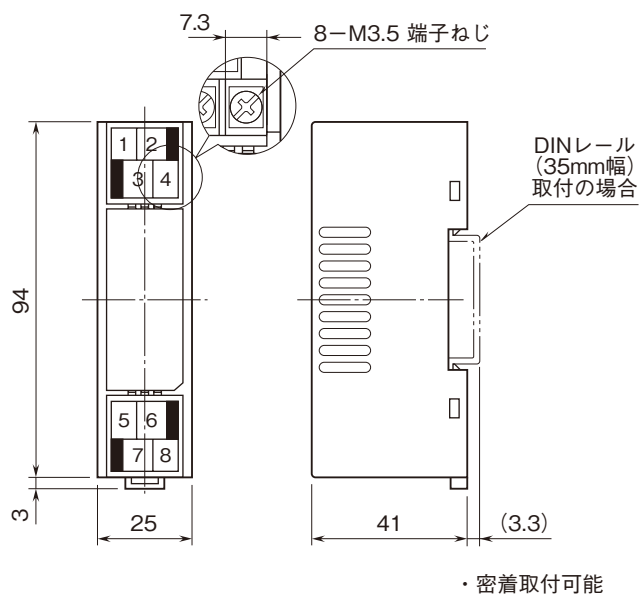
- ① マイナスドライバーなどでスライダを下に押し下げます。
- ② 手前に引いて本体下側を取外します。
- ③ 本体上側を DIN レールから取外します。



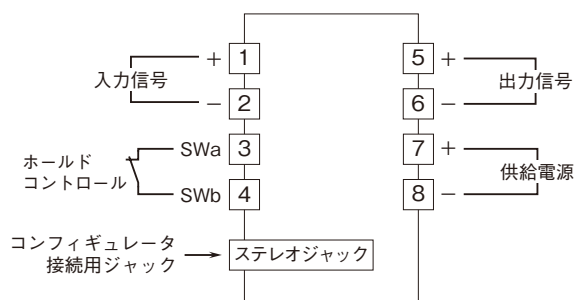
## 接 続

各端子の接続は端子接続図もしくは本体前面の結線表示を参考にして行って下さい。

### 外形寸法図 (単位 : mm)



### 端子接続図



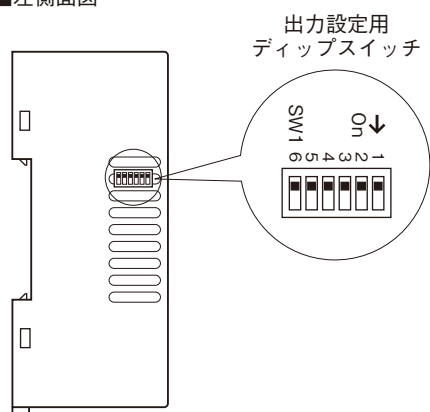
## 配 線

### ■端子ねじ

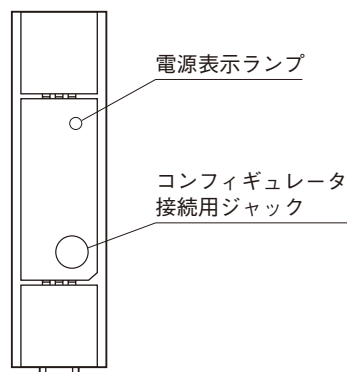
締付トルク : 0.8 N・m

## パネル図

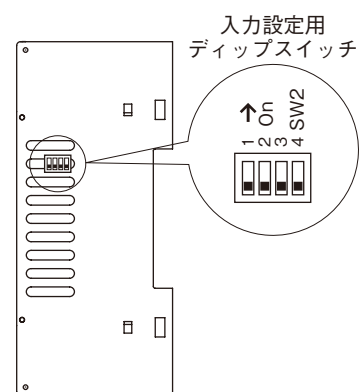
■左側面図



■前面図



■右側面図



## ホールドについて

### ■最大値ホールド

入力に変化した際に、入力値が変化前の入力値を上回ると出力値が更新されます。そのため、入力の最大値が更新されない限り、出力値は現在出力している値を保持します。

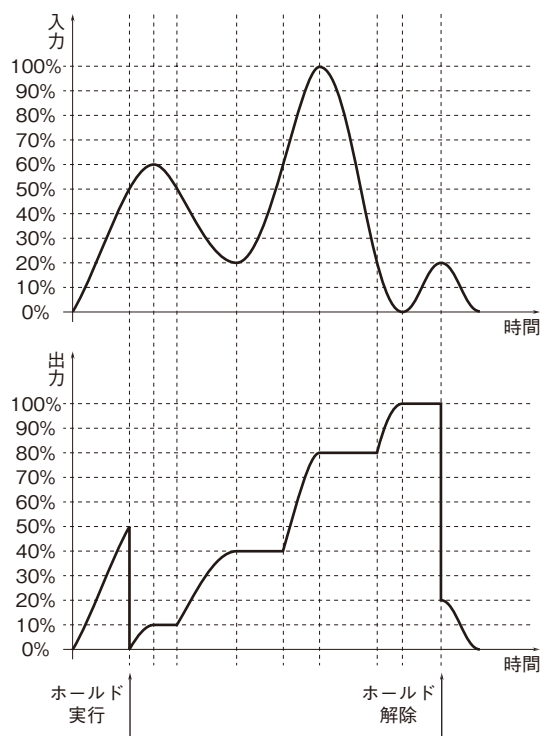
### ■最小値ホールド

入力に変化した際に、入力値が変化前の入力値を下回ると出力値が更新されます。そのため、入力の最小値が更新されない限り、出力値は現在出力している値を保持します。

### ■ピーク・ツー・ピークホールド

入力に変化した際に、それまでの入力値の最大値もしくは最小値を更新すると出力値が更新されます。出力値は入力のピーク値（最大値と最小値の差の絶対値）に比例しており、ピーク値が 10 % になると出力値は 10 % となります。ピーク値が上回らない限り、出力値は現在出力している値を保持します。

### ●ピーク・ツー・ピークホールド



## コンフィギュレーション

入出力の種類の切替には、PCによるコンフィギュレーションに加えてディップスイッチの設定が必要です。PCによるコンフィギュレーションについては、コンフィギュレータソフトウェア（形式：M5CFG）の取扱説明書をご参照下さい。

[表 1] 入力範囲

入力範囲	SW2-1	SW2-2	SW2-3	SW2-4
0 ~ 50 mA DC	ON	OFF	OFF	OFF
-1000 ~ +1000 mV DC	OFF	ON	OFF	OFF
-10 ~ +10 V DC	OFF	OFF	OFF	OFF



[表 2] 出力範囲




出力範囲	SW1-1	SW1-2	SW1-3	SW1-4	SW1-5	SW1-6
0 ~ 20 mA DC	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF
-5 ~ +5 V DC	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON
-10 ~ +10 V DC	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON

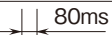
## 点検

- ①端子接続図に従って結線がされていますか。
- ②ディップスイッチは適切な位置に設定されていますか。
- ③供給電源の電圧は正常ですか。  
端子番号⑦-⑧間をテスタの電圧レンジで測定して下さい。
- ④入力信号は正常ですか。  
入力値が 0 ~ 100 % の範囲内であれば正常です。  
また、入力と出力が対応していない場合には、端子番号③-④間の状態（短絡、開放）が設定と合っているか確認して下さい。
- ⑤出力信号は正常ですか。  
負荷抵抗値が許容負荷抵抗を満足するか確認して下さい。

## 表示ランプの点滅仕様

本器は電源表示ランプを通して変換器の内部状態を知らせるようになっていました。電源表示ランプの表示パターンを以下に示します。下記に示すパターンで「」は消灯期間を、「」は点灯期間を表します。

変換器の状態	表示パターン
正常	
設定ダウンロード中、レンジ設定中、微調整中、固定出力中	
異常動作（設定データ破損など）	



## 保守

定期校正時は下記の要領で行って下さい。

### ■校正

10分以上通電した後、入力信号を 0、25、50、75、100 % の順で本器に与えます。このとき出力信号がそれぞれ 0、25、50、75、100 % であり、規定の精度定格範囲内であることを確認して下さい。出力信号が精度定格範囲から外れている場合は、コンフィギュレータソフトウェア（形式：M5CFG）の取扱説明書を参照して調整して下さい。

## 雷対策

雷による誘導サージ対策のため弊社では、電子機器専用避雷器<エム・レスタシリーズ>をご用意致しております。併せてご利用下さい。

## 保証

本器は、厳密な社内検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による故障、または輸送中の事故、出荷後 3 年以内正常な使用状態における故障の際は、ご返送いただければ交換品を発送します。